

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三ー五
TEL 027・2555・3434
FAX 027・2555・3435
http://www.neues-asahi.jp

ここ数年で数人の作家や知人が他界されました。

ノイエスに来廊され、元気な姿や声が今でも聞こえてくるような非現実と現実の間で揺れ動いている毎日を過ごしています。

そうかと言って前に進まなくてはならないと思い、書簡や書類を整理したり、二年も先のスケジュールを組み入れたりと、自分と向き合いながらの日々です。

そんな書類整理の一日、書家の岡部蒼風の「書道馬鹿の弁」という原稿が出てきました。岡部蒼風とは数人で展覧会の度に旅行をしたり、親しくさせてもらい孫(娘?)のように可愛がってもらいました。

岡部蒼風の文章を「ノイエスだより」に一部抜粋してご紹介したいと思います。あちらの世界で口を尖らせて、喜びながら「バカヤロウ！」と微笑んでいることでしょう。

(注・文章は当時の原稿のままに掲載してあります)

書道馬鹿の弁

岡部蒼風

17才の春、書には取り分け厳しい半田神来先生から、宿題作品を黒板に掲示・激賞された時から書という物の怪に取りつかれ、それから今日までの73年間、どうにもならない魔物と一緒に暮らすことになってしまった。因果なことである。役者には役者馬鹿というものがあるそうだが、こちらは書のこと以外は余り融通のきかない書道バカとでもいうべきか？

生来、世間的な世渡りの道にうといところへ、20才過ぎた頃、東大出の俊秀である国沢博先生に会い哲学、心理学、芸術論などについての研修学を教えられ、それからお亡くなりになるまで好誼をいただいたこと。また神来先生のご紹介状を得て、比田井天来翁「書学院」の「高等研究部」に入門を許され、中国・日本の古典・書論などについて一意研修すべきことを叩きこまれたこと。更には26・7才のころ、上田桑鳩氏らの「書道芸術」運動に山崎大抱らと同人に加えられ鮫島看山・大沢雅休・手島右卿氏その他の豪の者たちからもみ抜かれたこと。そして戦後。所謂「前衛書」運動の中の一人として和井田要・池田水城・井上有一・森田子竜・江口草玄・宇野雪村・比田井南谷らの精鋭たちと新しい表現を競い合った。エイキウ氏・棟方志功氏らの交誼に恵まれたのも此頃である。

この間、国内展では、幾つかの公募展から審査員を依頼されたが、内と外との矛盾を知らされ止めてしまった。ただ自分の蒼狼社展に勿論、新聞社・美術館からの推挙展には出品している。海外展ではニューヨーク美術館、欧州各国巡廻展、現代日本墨の芸術展・ドイツ・フライブルグ展・ダルムシュタット展・サンパウロビエンナーレ展・メルボルン近代美術館の日本現代書展・コロン美術館の現代日本絵画展その他に選抜されている。(略)

書が良いか悪いか、それは他人が見て決めることである。が私には次のような考えがある。

書は文字(文章)を書くのだが、その意味をあらわすものではない。例えば「喜」と書いてヨロコビを、「悲」と書いてカナシミを表現する。そんな単純なものではない。

何という字。文章が書かれているかはすぐには分らないにしても、そこに表現されているものが何となく見るものの中に沁み入るものがあり、情感に訴えるところがある。それでいいのではないか？

私の作品の多くは草書体か甲骨文字である。ちょっと見て読めて意味が分るといものではない。文字・文章にかかわるその表現から感じて何かを掴んでくれると思うからで、表現の意味が違うのである。

また、昔は前衛書などと呼ばれて文字を素材としない作品を当然のように発表して来たこともあるが、深く考えると書とは文字(主として漢字・仮名)を素材とするのが本来で、それをめぐって用材も表現方法も工夫・進歩して来たのだと思ひ、今は文字を扱わない作品は書とはいえないと断じている。(略)

兎に角、芸と名のつく魔物に関係してしまつた以上、良寛さんの境涯までは到底かなわなにしても、せめて芭蕉の「不易流行」観ぐらひは体得すべく努めたいものである。

春になると庭先に咲くスミレの花を鉢に入れてギャラリーまで届けてくれ、また酒宴では分野の違う多くの仲間たちに囲まれて「あと二本」と熱燗を子供のようになだる姿がありました。また女流書家や数人の書家を相手に作品の選評する時の厳しさの中にも優しさがある声が今でも聞こえてくるようです。人、一人が与える感動や影響はいつまでも、生きていく人の中で生き続けるようです。(武藤)

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

前橋の美術2020協力企画

4人の作家による3.11 その前とその後

金家秀男・住谷夢幻・多胡 宏・永沼鴻雲

(ノイエス企画)

会期 三月七日(土)～十五日(日)
午前十時～午後五時
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

ニットソーイングクラブ 真

第19回 春の作品展

日時 三月十七日(火)～十九日(木)
会場 ノイエス朝日

※開廊時間は、直接お問い合わせください。
電話 027・2355・0302 (設楽)

山口 晋 作陶展

(ノイエス企画)

会期 三月二十二日(日)～二十九日(日)
午前十時～午後五時
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

「前橋の美術2020」トナリの「ビジュツ」は、三月十五日(日)で終了します。
アーツ前橋、街なかの作品、市内ギャラリーの作品展示など、まだご覧になっていない方は是非お出かけください。
そろそろ春の風が吹き始めています。
コロナウイルスのニュースでマスクや消毒液などが薬局、スーパーでも品切れ状態が続き、外出も縮小気味です。
出かける前に手洗いと、うがいを、そしてマスクをして出かけ、帰宅したら再び手洗いと、うがいを、そして少しでも自己管理の上で、バランスの良い食事と十分な睡眠をとるよう心がけてください。